

発行：横浜市 都市整備局 地域まちづくり課
TEL 045-671-2696 FAX 045-663-8641 Email: tb-machizukuri@city.yokohama.jp
取材・編集：NPO法人 アクションポート横浜
TEL /FAX 045-662-4395 Email: info@actionport-yokohama.org

1P～7P 第6回まちづくりびと全員集合！！
「選んだまちから、自分たちで創るまちへ」
が開催されました。
8P 平成29年7月8日、一次コンテストが
行われました！

第6回まちづくりびと全員集合！！

「選んだまちから、

自分たちで創るまちへ」

が開催されました。

今年のテーマは
「戸建住宅地の
未来を考える」



平成29年3月26日（日）に、「第6回まちづくりびと全員集合！！」が、横浜市開港記念会館で開催されました。今回のテーマは、少子高齢化や人口減少による衰退が課題になっている「戸建住宅地」です。少子化、高齢化のほか、空き家や防災など、さまざまな課題が現れてきています。その中で、住民自らでまちを「創る」活動をしている地域があります。当日は雨にも関わらず、50人を超える大勢の方々と本音で議論ができました。

■問題提起、コーディネート：内海宏さん（㈱地域計画研究所代表）

■事例報告①港南区 美晴台の道に名前をつける会 高森惇さん

②旭 区 白根台第九自治会 渋谷八郎さん

③栄 区 庄戸の元気づくり実行委員会 朝比奈和子さん、坂本アヤ子さん



美晴台の道に名前をつける会 高森惇さん

そのため、以前から、住んでいる人や訪れる人にとっても不便だし、コミュニケーションや防犯のためにも、道に名前を付けた方が良く、というような話がありました。そこで、「**ヨコハマ市民まち普請事業**」※3に応募し、**見事採択され、事業を活用して道に愛称をつけ、案内サインをつくりました。**

※3 ヨコハマ市民まち普請事業：身近な施設を市民自ら整備する提案を募集し、二段階の公開コンテストで選考された提案に対して整備助成金を交付するなどの支援を行う事業

ヨコハマ市民まち普請事業に応募してからまず、多くの人に参加していただくために、「美晴台タウンニュース」という情報誌を発行し、これからやることを地域全体で共有しました。さらにアンケート調査を実施し、どんな愛称が良いのかを公募し、それをもとにワークショップを重ねて、道に愛称をつけました。また、**夜でもポスターなどが見え、道も明るくなるように、掲示板にソーラー照明をつけました。** このプロセスは自治会だけでなく、小学校や中学校、さらに他地域のグループなど、多くの人たちと協力しあって実現しました。さらに、**空き家2軒の庭を各持ち主が「どうぞお使いください」と提供してくれたので、サインづくりの作業に活用することもできました。** この他、**サインを使ったハロウィンのイベントなども行い、人のつながりが深まりました。**

このプロセスで見たことは、多くの人たちが、単に住む場所ではなく「自分たちの街なんだ」という地元意識が芽生えたこと、また、地域にはいろいろなノウハウを持った人がいる、ということです。

今後は空き家の軒先を使うサロンなどを考えています。



道の愛称を入れたプライベートサインの制作



「道に愛称がついた！」僕の家は何通りかな



美晴台の道に名前をつける会 活動位置図



②みどりづくりから広がるまちづくり —白根台第九自治会 渋谷八郎さん—

白根台第九地区の開発がはじまったのは、1970年代です。当時は子どもも多く、街全体が賑やかでしたが、**子どもたちは独立し、住民も高齢化し、静かな街になっていきました。**しかし、防犯やコミュニケーションを考えると、やはり街には人がいてほしいし、何かあったら頼れる人がどこにいるかを知っておきたい。だから、寄り合いの場がある街にしたい、と考えたのです。

この地域は街の中心に公園があり、一番集まりやすい場所でもあります。そこで、**公園に行けば誰かがいる、という状況を作ろうと、公園でいろんなイベントを開催しました。その結果、徐々に人が集まる公園になりました。**今でも、年間30~40のイベントをやっています。自慢なのは、春と秋の「園友会」。お花見や紅葉を愛でる会ですが、ちょっとおしゃれにしようと、「園友会」という名前にしました。これには、大勢の人たちが集まります。

自治会館も寄り合いの場にしようと工夫をしました。たとえば懐かしの映画をみんなで見よう、と映画会を企画し、それがきっかけで地域活動に参加してくれる人も現れました。また、絵が好きなのために、絵画展もやります。

さらに横浜市の「**地域緑のまちづくり事業**」※4にも**取り組みました。**これをきっかけに「第九緑の会」も生まれ、自宅でできる「緑化」の参加者も増えました。今では、「**第九自治会に来ると、突然緑が増えて歩いて楽しい街ですね**」というような声をいただくようになりました。緑をきっかけに人の



白根台第九自治会 渋谷八郎さん

輪も増えています。

困った時にはみんなで汗と知恵を出す、というパワーを結集する仕組みが、地域の中でいろんな寄り合いの場を生み、賑わいのある街になりました。

※4 地域緑のまちづくり事業：地域にふさわしい緑化プランをつくり、地域ぐるみで緑化を進める、「地域オーダーメイド型」の緑化事業



秋の園友会



空き家を利用した花苗づくり



白根台第九自治会 活動位置図

③元気づくりから広がるまちづくり —庄戸の元気づくり実行委員会 朝比奈和子さん、坂本アヤ子さん—

私たちの活動は町会としての活動ではなく、町会の中で地域活動に関心がある人が自発的に始めました。

庄戸地区は、栄区の南東部に位置し、風致地区にある閑静な住宅地です。1973年に開発が始まりました。鎌倉にも近い、自然が豊かな場所ですが、**交通不便、都心から遠いということで、徐々に人口が減り、高齢化していきました。また、一人暮らし世帯も多く、空き家も増え、防犯が課題になってきました。**

こうした街の将来に危機感を持ち、地域活性化に関心を持つ人を募り、活動を始めました。最初は、地域の実態を知るための勉強会を重ね、課題について話し合いました。そこで分かったことは、**庄戸の人たちが地域のことを知らないこと、お互いを知る機会もあまりないこと**などでした。

そこで、地域の情報を発信し、コミュニティをつくり、庄戸の特性を生かした安心・安全なまちを目指そう、と考えたのです。そのためには、いろんな情報が集まり、交流が来て、活動もできる拠点が必要、ということになり、**空き家を活用し、活動を始めることにしました。それが、「交流サロン庄戸」**です。

2008年に開所したサロンは、現在、多様な活動の拠点になっています。**「元気づくり」として、子育て支援と多世代交流の二つの事業を毎週行っていますが、それ以外は地域の人に開放し、サー**



庄戸の元気づくり実行委員会 朝比奈和子さん、坂本アヤ子さん



「交流サロン庄戸」開所式風景



子育て支援「すくすく」



庄戸の元気づくり実行委員会 活動位置図

クル活動や講座など、多くの方々に利用されています。また、餅つき大会や夏祭りなどの、地域向けのイベントも数多く行っています。さらに、日常生活でのお困りごとをお手伝いする「暮らし応援」も行い、相互に助け合いができる地域づくりを行っています。

活動内容は、ホームページや元気づくりニュースなどで、多くの人たちと情報を共有しています。

今年で発足10年ですが、支えてくださる方も増えてきました。少しずつですが、賑わいのある地域になりつつあると思います。

3. 郊外戸建て住宅地の展望 (内海宏さん)

ご報告いただいた3事例は、地域は違いますが、それぞれ閑静なブランド住宅地だったところ。ブランド住宅地の多くは、住環境を守るために、建築協定等のルールをつくってきました。それらによって、**閑静な住環境は守られてきましたが、まちの賑わい創出にとっては、厳しいルールが足かせにもなりかねないのが現在の状況です。**

いずれも、「少子化」「高齢化」という共通の課題を抱え、活気の低下、孤立化、空き家の増加、防災面に不安がある、という状況でした。しかし、その流れを食い止めようと、住民が知恵を出し合い、自らの力で変えてきたのが、この3地域です。

美晴台は自治会の協力を得て、白根台第九自治会は自治会主導で、そして庄戸地区は任意でボランティア組織がつくられ、まちの活性化に取り組みました。 主導している組織も違えば、「道路の愛称」、「寄り合いの場と緑」、そして「交流サロン」とテーマや手法も違います。しかし、**それぞれ今のまちの課題と向き合い、人と人をつなぎ、賑わいを生み出してきました。** まさに今日のテーマである「選んだまちから、創るまちへ」を実践していらっしゃいます。



戸建住宅地の今後を考えると、今回の3事例のように、自分の住むまちの課題を自分ごととして捉え、魅力を創り出していくという活動が非常に重要ですが、加えて、**新しいニーズに対応するためのルール改正も必要になってきます。** まちは時の経過、住まい手の変化で変わってきます。**建築協定から「地域まちづくりルール」※5などへの転換も、今後は考えていく必要があります。** また、横浜市には「ヨコハマ市民まち普請事業」や「地域緑のまちづくり事業」などの市民の取組を支援する制度が充実しています。美晴台が「ヨコハマ市民まち普請事業」を使い、白根台第九が「地域緑のまちづくり事業」を活用したように、そうした制度をうまく利用する、ということも大切です。

ぜひ、地域で課題を魅力に変えるような活動を創出していきましょう。

※5 地域まちづくりルール：建物や土地利用などについて、地域まちづくり組織（地域が主体となって地域まちづくりを推進するための組織）が地域住民等の理解や支持を得ながら、自主的に定めたルールのこと



4. フロアディスカッション ーみんなでワークショップ

事例報告者への質問項目をみんなで考えるワークショップを行いました。1グループ6人ぐらいで、感想を話し合い、質問項目をまとめました。そこから出てきたテーマは「資金集め」、「担い手を集めるには?」、「自治会との関わり」、「一番苦労したことは?」など、活動の実践にあたって知りたいことばかり。それに対して、報告者から具体的な話が語られました。

「資金集め」については、出来るだけ多くの資金源を確保すること。「担い手」を集めるために大事なのは声掛け。チラシや文書だけではだめで、できるだけ顔を合わせて声をかけること、そして子どもと一緒に来る保護者にも声をかけることなど、普段の苦労話が続々出てきました。

このワークショップで場がほぐれ、シンポジウム終了後も、報告者を囲んだ輪があちこちにできていました。



「まちづくり人全員集合!!」も今回で6回目。毎年秋に開催していましたが、初めて3月に行ったことで、どれぐらいの参加者があるのか、事務局は不安でした。しかも、当日は春には珍しく本格的な大雨!ところがその悪条件の中、会場にはあふれんばかりの参加者が駆けつけてくれました。大雨の日曜日に、わざわざ来てくださった方々に感謝するとともに、テーマである「戸建住宅地の未来」について多くの方々が重要だと考えていらっしゃるのだと実感しました。

今後も、ぜひこのテーマについて皆さまと考えていきたいと思っています。





平成29年度
ヨコハマ市民
まち普請事業

一次コンテストが 開催されました！



平成 29 年 7 月 8 日（土）、ヨコハマ市民まち普請事業 一次コンテストが開催されました。今年度は 12 団体（うち 1 団体は、一次免除）の応募があり、200 人を超える参加者が見つめる中、熱のこもったプレゼンが行われました。今年は例年にも増してレベルが高く、1 回の投票では選ぶことができず、決選投票を行いました。以下の 6 団体が、来年 1 月の二次コンテストに進みます。

整備提案名／団体名	提案概要	区
コミュニティ拠点居場所カフェの整備 warm place&サードプレイス	空き家を改装して、子育て支援拠点や子どもの居場所を整備。	鶴見区（一次免除提案）
太陽公園ローズサロン 荏子田太陽公園愛護会	公園内に地域の交流拠点を整備。	青葉区
食を通して福祉の街をつなぐ 食育をすすめるなかまの会	食堂の空きフロアを改装して、子育て支援拠点や子どもの居場所を整備。	西区
平安町 災害・福祉地域交流センター 平安町 災害・福祉地域交流センター 建設委員会	地域グループの活動場所や防災倉庫を整備。災害時は一時避難場所やボランティアの拠点とする。	鶴見区
中田のえんがわ「宮ノ前テラス」 多世代交流スペース 宮ノマエストロ	新築二階建ての戸建ての一階部分に地域交流拠点を整備。	泉区
「百段階」を中心とした美しが丘地区 遊歩道の整備 美しが丘アクセス委員会 遊歩道ワーキンググループ	散歩道にある階段に街の名所を紹介する標高タイルなどを整備。	青葉区

地域まちづくり課 “公認” Facebook 「ヨコハマ市民まち普請ひろば」

Facebookに登録していなくても誰でも見られます。

まち普請ひろば クリック

既にFacebookに登録されている方は、是非「いいね!」をよろしくお願いします。

(Facebookページの運営は協働事務局のNPO法人アクションポート横浜が担当しています)

ヨコハマ市民まち普請事業とは…

地域住民の思いを形にすることでコミュニティの拡がりをつくることを目的として、市民提案によるハード整備を支援しています。1年を通して行われる、2回の公開コンテストを通過した提案に対して、翌年度上限500万円の整備助成金を交付しています。参加団体が相互支援できる仕組みづくりにも取り組んでいます。

詳しい情報は、横浜市のウェブサイトをご覧ください。

まち普請 クリック

事前相談も随時受付中!

まちづくりについての情報を募集しています。

まちづくりに関するイベントや参加者募集、地域で行っているまちづくりの取組などの情報を下記までお知らせください。

メールマガジン「ヨコハマ人・まち」で広報のお手伝いをします。

《情報提供のあて先》

横浜市 都市整備局 地域まちづくり課

Email : tb-machizukuri@city.yokohama.jp

「ヨコハマ人・まち」のメールマガジンは地域まちづくりに関心のある方々への転送、お誘い大歓迎です。

メールマガジンの配信申し込み・停止は、ヨコハマ人・まち クリック